



2016年3月入職

とみもりななみ
富森ななみ

患者さまとの付き合いが密だからこそ、成長できる

目だけで、笑顔を表示しています

週3回ペースで通院される患者さまにとって、クリニックは生活の一部です。通院を楽しみに思っていただけのために何をすべきかを考えたとき、「優しい看護師さんがいること」が患者さまのモチベーションになると思いました。普段、看護師はマスクをすることが多いのですが、マスクをすると口元が見えないので、表情がよく分かりません。だから私は、目だけでも笑っていることが伝わるようにいつも心がけています。表情と声は合致するので、笑顔を心がけていると声のトーンも自ずと柔らかくなります。

表情や声を含め、患者さまは看護師の細かいところを見えています。以前、ある患者さまに穿刺をしたとき、「まだまだダメだ」と言われました。その方は私が入職する前から通院されていて、スタッフの人となりや技術をよく理解されています。その方に認めてもらえるよう、穿刺以外のタイミングでも会話を増やしました。するとあるとき、「成長したね。信頼しているよ」とおっしゃっていただき、穿刺を任せてもらったのです。患者さまは長期的にクリニックに通う中で、看護師一人ひとりの成長を判断されています。一時的な関係ではなく、長いお付き合いになるからこそ、自分自身を律しながら成長できると感じています。



注目する側から、注目される側に



思いやりエキスパートの候補に選ばれたときは、周囲に助けてもらってばかりの私には相応しくないと考えたのが率直な感想です。しかし、他の候補生や思いやりエキスパートの先輩たちも最初はそうだったと聞いて安心しました。まわりを引っ張ることに関しては、研修が終わった今もまだ苦手ですが、徐々に意識は変わっています。

私自身、思いやりエキスパートの候補に選ばれたことで、これまでに認定された先輩たちを「どういう立ち振る舞いをしているんだろう」という観点で見られるようになりました。これからは、自分が同じように注目される立場になります。患者さまに挨拶をするときにも、誰かが注目しているかもしれません。思いやりエキスパートに相応しい行動を起こすためには、行動の原理となる思いやりの心が大事です。穏やかさと思いをやりを意味する“和顔愛語”をこれまで以上に大切にしながら、看護師として次のステージに進みたいと思っています。

和顔愛語

富森ななみ